

令和5年度（2023年度）地域医療介護総合確保基金事業（医療分）提案調査票（総括表）

団体名	社会福祉法人 恩賜財団 済生会滋賀県病院
担当部署	事務部
担当者	澤本 充史
電話	077-552-1221
E-mail	sawamoto-a@saiseikai-shiga.jp

優先順位	事業区分	事業名	金額（千円）
例)	I	〇〇事業	△△千円
1	I	手術室整備事業（陽陰圧切替改修工事）	8,619
2	I	新棟整備事業	7,149,984
3	I	医療・介護連携システム構築	24,000
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
合計			7,182,603

令和5年度（2023年度）地域医療介護総合確保基金事業（医療分）提案調査票

事業の名称		手術室整備事業（陽陰圧切替改修工事）
事業の実施主体		済生会滋賀県病院
対象圏域		湖南医療圏
事業期間		令和5年度内
事業の分類	(大)	I-① 地域医療構想の達成に向けた医療機関の施設又は設備の整備に関する事業
	(中)	(1) 医療提供体制の改革に向けた施設・設備の整備 等
	(小)	5 病床の機能分化・連携を推進するための基盤整備
事業の概要（積算）		<p>《事業概要》</p> <p>手術室の空調は清浄度の高い環境を維持し、術後感染を回避するための空間をつくる必要があり、通常手術室の気圧は陽圧に保たれている。ただしコロナ等感染症患者に手術を行なう場合は手術室を陰圧にする必要がある。感染症患者の対応するため、湖南医療圏内で不足していると見込まれる陰圧・陽圧切り替えが可能となる手術室への改修を実施する。</p> <p>-----</p> <p>《積算》</p> <p>○手術室陽陰圧切替改修工事（1室）</p> <p>施設改修費 8,619千円</p>
現状と課題、事業の目的		手術室については感染管理のため陽圧管理を行うことで清浄度を維持している。コロナ等感染症患者に対しての手術を陽圧管理の手術室で行なった場合、次の患者が利用する際には、約70分の時間を空けて環境消毒を行うなど、感染症対策を講じる必要があり、かつ院内感染のリスクが高まる。陰圧管理を可能とすることで、院内感染のリスクを低減させた中で、緊急手術の対応を行なうことを目的とする。
地域医療構想との関係性		第8次医療計画において「新興感染症等の感染拡大時における体制確保」が6事業目に追加される。手術室の陰圧室整備は「平時からの取り組みに必要な観点」及び「感染拡大時の取り組みに必要な観点」への充実に寄与する。
事業の成果・効果		コロナ感染患者（特に妊婦に対する帝王切開）への手術について、感染リスクを低減させることで受入体制の充実が期待できる。
達成目標	目標とする事項	陰圧対応手術室数
	現在値	0室
	目標数値	1室

令和5年度（2023年度）地域医療介護総合確保基金事業（医療分）提案調査票

事業の名称		新棟整備事業
事業の実施主体		済生会滋賀県病院
対象圏域		湖南医療圏
事業期間		令和5年度から令和7年度
事業の分類	(大)	I-① 地域医療構想の達成に向けた医療機関の施設又は設備の整備に関する事業
	(中)	(1) 医療提供体制の改革に向けた施設・設備の整備 等
	(小)	5 病床の機能分化・連携を推進するための基盤整備
事業の概要（積算）		<p>《事業概要》</p> <p>湖南医療圏で増加が見込まれているがんや脳卒中などの医療需要への対応のため、内視鏡センター、外来化学療法室、及び健診センターの移設、MRI増設、IVR-CT新設、災害発生時のトリアージスペースの確保を行う。また、新棟整備に伴い管理棟（院内保育所、更衣室、SPD）の建設、旧病院の解体を実施する。</p> <hr/> <p>《積算》</p> <p>○新棟建設 管理棟建設 旧病院解体</p> <hr/> <p>合計 7,149,984千円</p>
現状と課題、事業の目的		平成16年に現在の病院を建設し17年以上経過している。これまでの医療需要の増加には対応できていたが、今後の需要増加に伴い不足する医療設備を、新棟建築で整備することで、湖南圏域に居住する患者が他の医療圏に流出することなく、地域で安心して暮らせる地域包括ケアシステムの構築に寄与することが可能となる。
地域医療構想との関係性		湖南医療圏における医療需要（2015年対2035年）については、高度急性期機能は22.1%、急性期医療については26.5%増加し、その後は横ばいで推移することが見込まれている。「①県民の命を守る高度・専門医療の維持・発展」を実現するために必要な整備である。
事業の成果・効果		新棟の整備により急性期医療を中心として適切な医療提供体制を構築することができる。また、現在の病院においては空きスペースが生じるため、外来化学療法室の拡充などにより「医療資源を重点的に活用する外来」の充実が期待できる。
達成目標	目標とする事項	新棟の整備
	現在値	未整備
	目標数値	整備

令和5年度（2023年度）地域医療介護総合確保基金事業（医療分）提案調査票

事業の名称		医療・介護連携システム構築
事業の実施主体		済生会滋賀県病院
対象圏域		湖南医療圏
事業期間		令和5年度～令和9年度
事業の分類	(大)	I-① 地域医療構想の達成に向けた医療機関の施設又は設備の整備に関する事業
	(中)	(1) 医療提供体制の改革に向けた施設・設備の整備 等
	(小)	1 ICTを活用した地域医療ネットワーク基盤の整備
事業の概要（積算）		<p>《事業概要》 地域包括ケア実現のため、医療と介護の垣根を越えた連携が必要であることから、ICTを活用し医療スタッフと介護スタッフが患者・利用者の情報をリアルタイムに情報共有なシステム構築を行う。</p> <hr/> <p>《積算》 済生会滋賀県病院、守山市民病院を中心に、その他介護施設での5年利用を想定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療介護連携システム ソフトウェア・ライセンス料 9,000千円 ・電子カルテ、介護システム 各システム連携改修費用 15,000千円 <li style="text-align: right;"> 計 24,000千円
現状と課題、事業の目的		現状、各施設間の情報共有についてはFAX・電話、必要な場合は集合形式のカンファレンスを実施しており、職員の業務負荷およびリアルタイムの情報共有ができていない。医療・介護連携システムの調達および既存の電子カルテ・介護システムを改修し連携することで、湖南圏域内での入退院と在宅療養との切れ目のない円滑な連携の促進を図ることを目的とする。
地域医療構想との関係性		滋賀県地域医療構想に掲げている、「切れ目のない連携システムの構築」および「医療と介護が一体となって生活を指させる地域づくり」の実現に寄与できる。
事業の成果・効果		医療と介護・福祉が一体となった地域住民への質の高いサービスの提供。各施設の医療・介護従事者の作業軽減に繋がり専門業務に労力を費やすことができる。
達成目標	目標とする事項	医療・介護連携システムの稼動（電子カルテ、介護システム連携を含む）
	現在値	—
	目標数値	—